

特別講演 2

「NOAC の時代になって変わった事・変わらない事

～寝たきりになる患者を減らすためにできる工夫とは？～」

国立病院機構大阪南医療センター 循環器疾病センター部長

奥山 裕司 先生

NOAC の臨床試験を読み解く際には対照となったワルファリン群の治療の質を見なければならぬ。適切な質のものに負けなかったでは 500 円支払う気にならない。アピキサバンは有効性・安全性ともに“標準的な質”のワルファリン治療に勝っていた。ある程度の範囲では、高齢であるほど、腎機能が悪化するほど、ワルファリンに勝ることが証明されている。アピキサバンを含む NOAC はワルファリンの様々な問題を打破したが、新たな課題も生んでいる。また NOAC は全般に頭蓋内出血が少ないと喧伝されているが、実はすべての NOAC に当てはまることではなさそうだとすることも次第に分かってきた。市販後の調査は基本的に大規模試験から得られるメッセージを補完するものであるという点にも注意が必要である。今回は、心房細動と抗凝固療法全体を俯瞰することで、NOAC の優れた性能を発揮させるコツを共有したい。